ポスター発表Ｐ⑰

「看護技術」演習をグループで効果的に進めるための取り組み

古川　薫　　重本　津多子
（徳島文理大学保健福祉学部看護学科）

１．はじめに

当大学に看護学科が開設され 4 年目を迎えた。基礎看護学領域の授業である「看護技術」は、1 年後期から開始され 2 年後期まで続く。文部科学省看護学教育の在り方に関する検討会報告書 2002 年の『看護基本技術』の学習項目にそって、実践力のある看護師を育成することを目ざし演習を主体に展開してきた。演習は、従来より 1 学年約 90 名の学生を 1 グループ 3-4 名の 22 グループに分け、さらに 2 つの実習室に分れて教員 5-6 名が担当し進めてきた。しかし、担当するグループ全体に教員の目が行き届かない事もあって、学生が間違った方法で演習を進めていたり、消極的であったりと問題がみられた。

そこで、より効果的に演習を行うためには、学生自身が主体となり積極的に演習が行えるような授業展開が必要であると考え、演習法の改善に取り組んできたが、カリキュラム内で授業目標を達成し、有意義な演習となるようにするためには課題も多い。今回、授業改善に取り組み、評価アンケートを行い、グループ演習法における課題を明らかにしたので報告する。

２．方法

対象：看護学科 1 年生 43 名、１実習室の学生を対象とした。

（1）従来の演習方法

授業の初めに、演習内容に関する講義や DVD による説明を 30-40 分行った後、教員によるデモンストレーションを再度行い手順やポイントについて理解してもらう。その後、各グループに分かれて演習を開始する。教員は学生 3-4 グループに対して 1 名がラウンドする形で指導に当たる。また、学生は毎回メンバーが同じにならないよう変更し、特にグループリーダーは、おいていなかった。

（2）新しいグループ演習の方法

授業初めに講義や DVD を使った後、デモンストレーションを行うのは同じであるが、各グループとも毎回同じメンバーに設定し、リーダー学生を決めリーダーには演習内容について前週に事前指導を行った。毎回同じグループメンバーになるよう変更したのは、対象が 1 年生であり、頻回に変えると関係性を築きにくいという学生の意見を採用したためである。リーダーが、演習当日グループメンバーに演習の進め方や手順について説明できるようにした。

（3）評価方法

期間：2011 年 9 月 21 日～11 月 9 日

授業最終日に、従来の方法と新しい方法を比較しリーダーのもとで演習を進める方法は効果的であったか、またその理由ついては自由記載で回答を求めた。結果は単純集計した。

３．結果

1 年生 43 名に評価アンケートを行い 40 名回収、回収率は 93％であった。

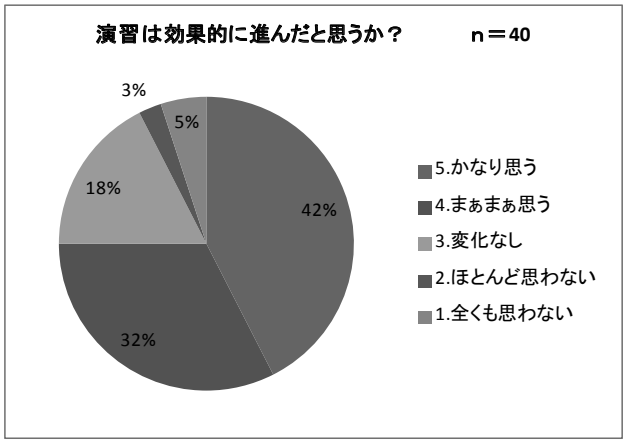

図１．より効果的に演習が進んだと思うか

演習は効果的に進んだと思うかという質問に、「かなり思う」と「まぁまぁ思う」と答えた学生

は 74%であった。効果的であったと思った理由をカテゴリー分類した結果を表１に示す。*「皆で悩む無駄が減った。本を見ても解らない時、いちいち先生を呼ばなくてもすむ。」「先生がいつもついてるわけではないので、リーダーにわからない所があれば聞くことができた。」*と答えた学生もおり、【解らないところを相談できる。】ということであった。

反対に、リーダーがいても効果的と思わない学生は 8%であった。その理由として、*「先生から直接学んだ方が正確に思う。」「リーダーに負担がかかる。」「リーダーによったら教えてくれない。」*等があげられた。

表１．効果的であったと思う理由

＜カテゴリー＞	＜サブカテゴリー＞
解らないところを相談できる	手順や、ポイント等を教えてくれる
	解らないところを相談できる
	先生以外にも聞ける
スムーズに進む	先生に聞く回数が減る
	無駄に悩まないですむ
	演習の流れを理解している人がいる
チームを引っ張る	チームを引っ張れる

更に、リーダーになった学生 11 人に、リーダーをやってみてどうだっかを答えてもらった。結果は図２に示す。全員が「良かった」か「まぁまぁ良かった」と答えていた。しかし、その理由としては、*「先に理解して、グループメンバーに説明することによって自分がどのくらい理解しているかもわかる」「人に教える前にまず自分が理解しているから予習となり、演習が復習になる」「理解が深まる。2度するから記憶によく残る」*といった内容が殆どであり、グループ演習の効果を上げる、グループメンバー全体での成長を目指すというより、自分の学習や理解への動機づけであった。

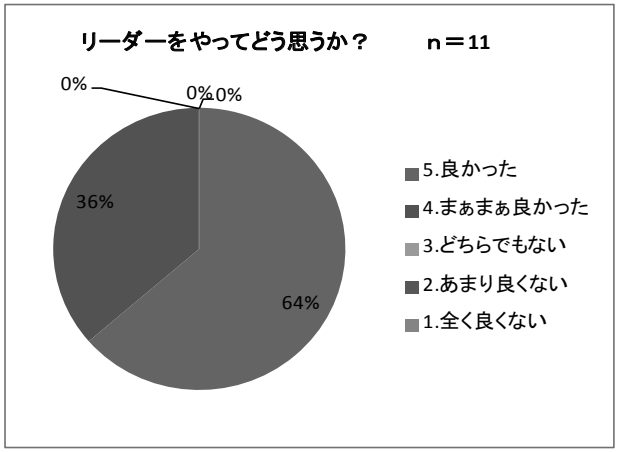

図２．リーダーをやってどう思うか

４．考察

大学教育においては、本来自ら学ぶ姿勢が重要と考えられるが、近年では、「教えてもらっていない」とか、「言われていない」といった主体性に乏しい学生が増えている。学生には、演習においても役割意識を持ち、自らが積極的に学ぶ態度が必要であり、学生の主体性を育てることが重要である。

評価アンケートでは、メンバー学生側もリーダー学生側も、従来よりは効果的だと感じた学生が多かったことから、グループ内で少なからず自主的に理解に繋がるような演習ができたのではないかと考える。しかし、結果にもあるように、リーダー学生が、学習目標を踏まえ正確な手技・手順を理解できていなければ演習自体が危うくなる。リーダー学生は、自分の理解度を確認する機会にはなっているが、グループメンバーと共通理解にまで及んでいるか、確実性はどうかということを評価する必要がある。また、学生間の関係性や個別性によっては、リーダーシップを発揮できない、相談しあえないといった問題も生じていた。

今後の要望として、リーダーは毎回変えた方が良いという意見もあったが、学生のリーダーシップを養いながら、効果的なグループ演習をできるようにするためにはクリアしなければならない課題が多い。